

東北地方 1か月予報

(5月28日から6月27日までの天候見通し)

平成17年5月27日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で天気がぐずつく時期がある見込みです。平年と同様に曇りや雨の日多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並、日照時間は平年並でしょう。

週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも平年並でしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 5月28日(土) ~ 6月27日(月)

1週目 : 5月28日(土) ~ 6月3日(金)

2週目 : 6月4日(土) ~ 6月10日(金)

3~4週目 : 6月11日(土) ~ 6月24日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日 14時30分 次回は6月3日

3か月予報:6月23日(木) 14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3~4週目の平均気温)

	気温()	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温()		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	16.9	166.2	164.5	15.6	16.5	17.5
新庄	18.3	123.3	166.9	16.8	17.9	18.9
若松	19.5	104.2	173.5	18.0	19.1	20.1
深浦	16.7	108.5	192.5	15.2	16.3	17.4
青森	16.6	81.9	194.7	15.2	16.2	17.2
むつ	15.3	109.7	178.2	14.0	14.9	15.8
八戸	15.9	97.6	183.3	14.8	15.5	16.3
秋田	18.4	124.6	191.2	16.7	17.9	19.1
盛岡	17.7	111.6	165.4	16.2	17.4	18.4
宮古	15.7	111.6	155.9	14.7	15.4	16.2
酒田	18.9	122.1	190.7	17.4	18.5	19.6
山形	19.2	94.3	171.0	17.9	18.9	19.8
仙台	18.0	128.4	146.5	16.9	17.7	18.5
石巻	17.3	104.5	162.0	16.1	17.0	17.8
福島	19.6	106.8	148.6	18.6	19.5	20.1
白河	18.1	157.7	139.5	17.0	17.9	18.6
小名浜	18.0	142.2	154.9	16.8	17.6	18.5

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差()	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.5~+0.3	84~109	92~107
東北日本海側	-0.5~+0.2	77~112	95~107
東北太平洋側	-0.5~+0.4	82~108	88~109

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.7~+0.6	-0.7~+0.6	-0.5~+0.3
東北日本海側	-0.6~+0.6	-0.6~+0.4	-0.5~+0.3
東北太平洋側	-0.7~+0.7	-0.7~+0.7	-0.5~+0.4

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温(降水量)等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。

階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めてあります(気候的出現率と呼びます)。

(2) 予報する確率の数値は、それぞれの階級が出現する可能性の大きさを表しています。予測資料の信頼性が大きい場合には気候的出現率から大きく隔たった10%以下や60%以上の確率を付けられますが、特定の階級を強調できない場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成17年5月27日 仙台管区気象台

1. 出現の可能性が最も大きい天候

向こう1か月(5月28日~6月27日):

天気は数日の周期で変化しますが、前線やオホーツク海高気圧の影響で天気がぐずつく時期がある見込みです。東北地方は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

1週目(5月28日~6月3日):

東北北部は、高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。東北南部は、初め高気圧に覆われて晴れの日がありますが、その後は、気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多い見込みです。

平均気温は平年並でしょう。

2週目(6月4日~6月10日):

天気は数日の周期で変化しますが、前線などの影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

3~4週目(6月11日~6月24日):

前線やオホーツク海高気圧の影響で天気がぐずつく時期があり、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

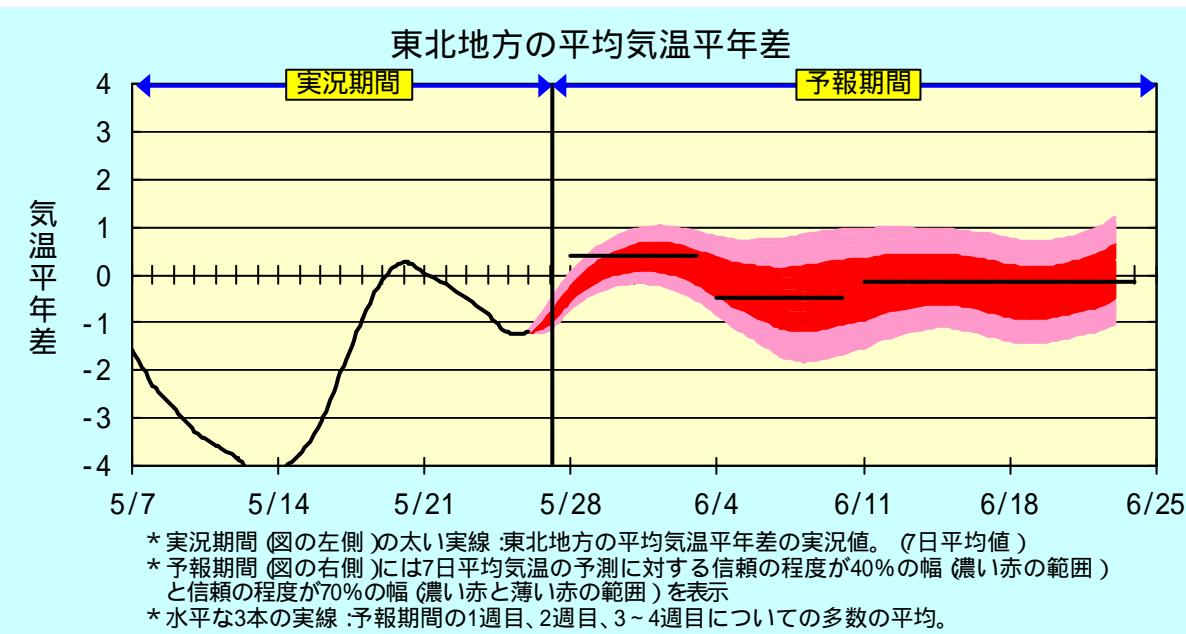
平年の晴れ日数

	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	14.6日	4.3日	3.8日	6.5日
東北太平洋側	12.8日	3.9日	3.5日	5.4日

2. 東北地方の平均気温平年差の実況と数値予報による予測

数値予報による週別の気温は、1週目、2週目、3~4週目とも「平年並」と予測している。予報は、数値予報通りとする。

なお、数値予報の信頼度は小さい。

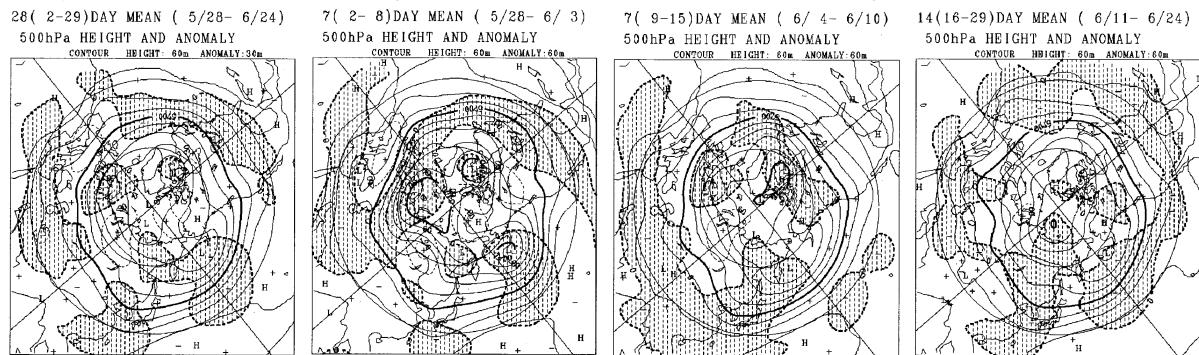


3. 数値予報（アンサンブル平均天気図）による大気の流れの予想

500hPa 高度と偏差：

月平均では、西日本から大陸東岸が広く負偏差だが、東日本と北日本は正偏差で西谷傾向。日本の南東海上の高気圧は平年より強い。オホーツク海から日付変更線付近は負偏差が広がる。

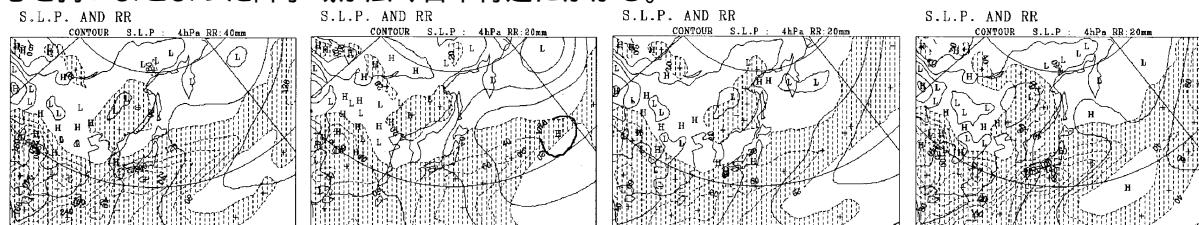
1週目は九州南部以南と沿海州北部に負偏差があり、日付変更線付近でベーリング海峡から南に負偏差が広がる。バイカル湖付近に強い正偏差。2週目は日本付近は南北に広く負偏差が広がり、西谷傾向。日本の南東海上の高気圧は平年より強い。3~4週目は西日本以西に負偏差が広がるが、東日本と北日本は正偏差。沿海州には気圧の尾根が予想される。



地上気圧と降水量：

月平均では、太平洋高気圧の西への張り出しが平年より弱いが北への張り出しがほぼ平年並。北海道の東海上の高圧部は平年より強い。本州南岸は低圧部となり、まとまった降水域が予想される。

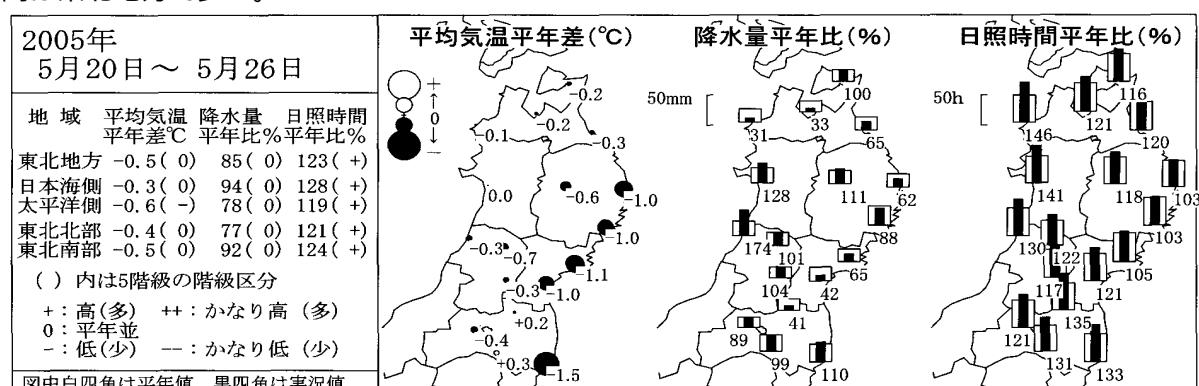
1週目は、太平洋高気圧が日本の北まで張り出す。まとまった降水域は本州の南岸沖。2週目は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが平年より弱い。本州南岸は低圧部となり、まとまった降水域は東北地方以南。3~4週目は、太平洋高気圧の北への張り出しが平年並。千島列島付近の高圧部は平年より強い。また、三陸沖から本州南岸に等圧線のくびれがみられ、本州の南岸沖に中心を持つまとまった降水域が広く日本付近にかかる。



4. 最近1週間（5月20日～5月26日）の天候の経過

この期間、半ばの22~24日にかけては、低気圧や上層寒気の影響で曇りや雨となった。期間の初めは移動性高気圧に覆われて晴れたが、後半はオホーツク海高気圧の影響で気温の低い日が多かった。

平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。降水量は東北地方で平年並。日照時間は東北地方で多い。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)